

中学校国語科指導法研究会グループ研究会

グループ員：横内 愛 (東中学校)	伊藤 秀子 (東中学校)
河野 智文 (西中学校)	新立 隼也 (西中学校)
朝井 満里奈(北中学校)	阪田 彩香 (北中学校)
竹内 祐子 (北中学校)	仲上 寛紀 (天王寺川中学校)
廣 一登 (松崎中学校)	能登 まゆ子(松崎中学校)
村上 裕 (荒牧中学校)	窪田 えみか(笹原中学校)
小林 滉大 (笹原中学校)	山岡 永美 (笹原中学校)

担当指導主事：八東 伸明

キーワード：授業力向上 音読 ペアワーク 目標と評価の一体化

1 研究テーマ

「国語科指導法についての研究」

2 研究内容

前年度に引き続き、「国語科指導法についての研究」をテーマに研究を行った。これまでは、ベテラン教員の講話が中心で、すぐれた実践を聞くことができたが、まだ経験年数の浅い教員にとっては、それらの手法を自分のものにし、授業に取り入れることが難しかったため、今年度はグループ員の授業をビデオ撮影し、それをを用いて授業研究をすることを中心に研究会を進めた。

(1) 授業研究

① 西中学校 新立 隼也教諭による「故事成語(1年生)」の授業

ア 授業の目標と実際・評価の一体化について

イ 音読の方法について

ウ 便覧等、資料の使い方について

② 東中学校 伊藤 秀子教諭による「平家物語(2年生)」の授業

ア 板書について

イ 思考させるための授業展開について

ウ ペアワークの取り入れ方について

各授業のビデオを見ながら、「自分も取り入れたい点」「自分ならこうしたい点」について、意見交流を行った。

(2) 授業展開例の検討

ア 「飛べ かもめ(1年生)」

イ 「卒業ホームラン(2年生)」

ウ 「形(3年生)」

各単元の「導入(本時のめあて)」「展開」「まとめ」「本時の評価基準」について、グループで検討した。

3 成果と課題

(1) 成果

① 研究の対象が経験年数の近い教員の授業だったので、良い点、改善点ともにわかりやすく、グループ員が自分の授業に生かすことができた。

② ふだんは一人でしている授業計画をグループで行うことで、教材研究や授業展開の仕方を交流することができた。

(2) 課題

① 今年度はグループ研究会の開始が11月になった。次年度は研修開始時期を早め、定期的に

継続して研修を行う必要がある。

- ② 教員同士が学びを深められるような研修の形態等を、工夫する必要がある。